



JFE

JFEグループ インベスターズ・ミーティング

2021年8月12日

JFEホールディングス株式会社

- **JFEグループ° 2021年度 第1四半期決算**
- **JFEグループ° 2021年度 業績見通し**
- **配当について**
- **事業会社別**
 - 2021年度第1四半期決算・業績見通し**
- **トピックス（ESG課題への取り組み等）**

JFEグループ
2021年度 第1四半期決算



2021年度 第1四半期決算概要

JFE

- 前年度下期以降の世界各国の経済の持ち直しが継続
- 世界全体の経済回復基調のもと、堅調な鋼材需要と鋼材市況等により、鉄鋼事業を中心に収益は大幅に回復した

(億円)	2020年度 第1四半期	2021年度 第1四半期	増減
売上収益	7,439	8,889	1,450
事業利益	▲472	883	1,355
金融損益	▲32	▲29	3
セグメント利益	▲504	854	1,358
個別開示項目	-	-	0
税引前利益	▲504	854	1,358
税金費用・非支配持分帰属当期利益	112	▲234	▲346
親会社の所有者に帰属する当期利益	▲391	619	1,010

事業利益：税引前利益から金融損益及び金額に重要性のある一過性の項目を除いたもの

セグメント利益：事業利益に金融損益を含めたもの



2021年度 第1四半期決算概要 セグメント別

JFE

(億円)	2020年度 第1四半期	2021年度 第1四半期	増減
売上収益			
鉄鋼事業	5,087	6,385	1,298
エンジニアリング事業	1,050	1,030	▲20
商社事業	2,380	2,616	236
調整額	▲1,079	▲1,142	▲63
合計	7,439	8,889	1,450
事業利益 (A)	▲472	883	1,355
金融損益 (B)	▲32	▲29	3
セグメント利益			
鉄鋼事業	▲578	697	1,275
エンジニアリング事業	15	42	27
商社事業	44	115	71
調整額	13	▲0	▲13
合計 (A+B)	▲504	854	1,358

JFEグループ 2021年度 業績見通し



2021年度 業績見通し

JFE

- 上期は、鉄鋼事業の需要回復や市況上昇を主因に、**事業利益は1,950億円の大黒字**の見通し
- 国内外の経済の持ち直しを背景として、鋼材需要回復や鋼材市況の上昇等により、**通期の事業利益は3,500億円（前年度比+3,629億円）**の見通し

(億円)	2020年度実績		2021年度見通し		増減	
	上期	年間	上期	年間	上期	年間
売上収益	14,922	32,272	19,700	41,700	4,778	9,428
事業利益	▲1,143	▲129	1,950	3,500	3,093	3,629
金融損益	▲64	▲124	▲50	▲100	14	24
セグメント利益	▲1,207	▲254	1,900	3,400	3,107	3,654
個別開示項目	—	204	—	—	0	▲204
税引前利益	▲1,207	▲49	1,900	3,400	3,107	3,449
税金費用・非支配持分帰属当期利益	150	▲169	▲600	▲1,000	▲750	▲831
親会社の所有者に帰属する 当期利益	▲1,057	▲218	1,300	2,400	2,357	2,618

2021年度 業績見通し セグメント別

JFE

(億円)	2020年度実績		2021年度見通し		増減	
	上期	年間	上期	年間	上期	年間
売上収益						
鉄鋼事業	10,272	22,552	14,500	31,300	4,228	8,748
エンジニアリング事業	2,219	4,857	2,400	5,200	181	343
商社事業	4,517	9,325	5,600	11,500	1,083	2,175
調整額	▲2,086	▲4,461	▲2,800	▲6,300	▲714	▲1,839
合計	14,922	32,272	19,700	41,700	4,778	9,428
事業利益 (A)	▲1,143	▲129	1,950	3,500	3,093	3,629
金融損益 (B)	▲64	▲124	▲50	▲100	14	24
セグメント利益						
鉄鋼事業	▲1,362	▲654	1,600	2,800	2,962	3,454
エンジニアリング事業	87	240	100	250	13	10
商社事業	72	200	230	380	158	180
調整額	▲4	▲41	▲30	▲30	▲26	11
合計 (A+B)	▲1,207	▲254	1,900	3,400	3,107	3,654

2021年度業績見通し 対前回見通し

JFE

JFEホールディングス連結事業利益は3,500億円（前回比+1,500億円）の見通し

(億円)	前回見通し (A)	今回見通し (B)	差異 (B-A)
売上収益	39,300	41,700	2,400
事業利益	2,000	3,500	1,500
鉄鋼事業	1,400	2,800	1,400
エンジニアリング事業	250	250	0
商社事業	270	380	110
セグメント利益（調整額込み）	1,900	3,400	1,500
親会社の所有者に帰属する当期利益	1,300	2,400	1,100

事業利益：税引前利益から金融損益及び金額に重要性のある一過性の項目を除いたもの

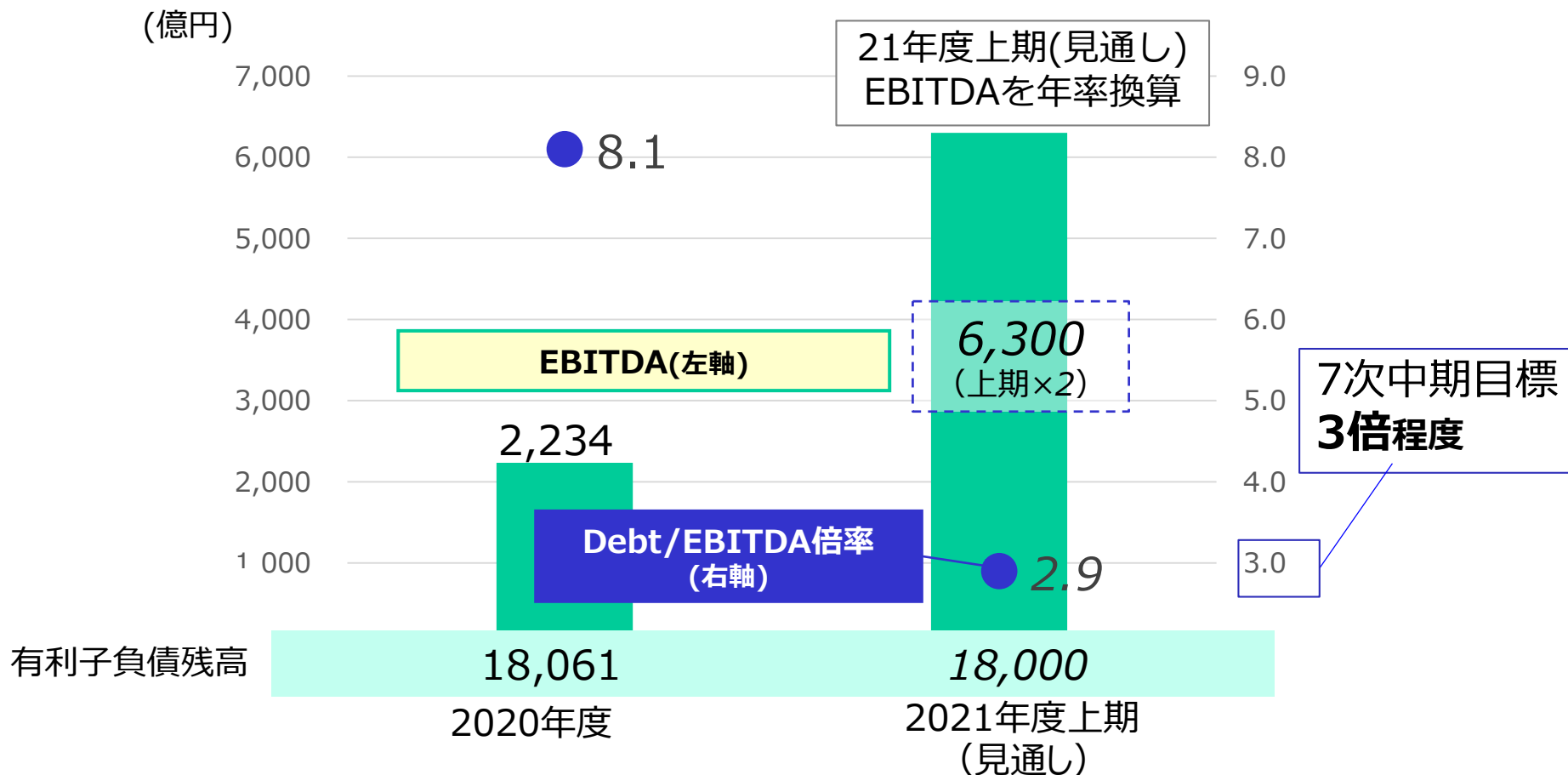
セグメント利益：事業利益に金融損益を加えたもの



Debt/EBITDA倍率の推移

JFE

2021年度上期末のDebt/EBITDA倍率は、7次中期目標レベルに到達（2.9倍）



■ EBITDA = 事業利益 + 減価償却費及び償却費

■ Debt/EBITDA倍率 = 有利子負債残高/EBITDA

配当について



当期の中間配当については、
1株当たり60円とする方針を取締役会において
決議いたしました。

期末の配当については、
今後の業績動向を見極めつつ検討することとしており、
未定としております。

JFEスチール
2021年度 第1四半期決算
2021年度 業績見通し

2021年度 第1四半期決算

JFE

	単位	2020年度					年間	2021年度
		4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月		
売上収益	億円	5,087	5,186	5,802	6,476	22,552	6,385	
セグメント利益	億円	▲578	▲784	343	364	▲654	697	
棚卸資産評価差除き*	億円	▲348	▲334	143	224	▲314	257	
単独粗鋼生産量	万t	479	538	627	632	2,276	625	
連結粗鋼生産量	万t	509	568	659	660	2,396	659	
単独鋼材出荷量	万t	459	475	542	572	2,049	526	
鋼材輸出比率 (単独・金額ベース)	%	44.2	40.2	40.3	44.3	42.3	43.2	
鋼材平均価格	千円/t	75.3	71.0	73.4	78.8	74.8	87.6	
為替レート	円/ドル	107.7	105.9	104.8	104.7	105.8	109.8	
期末為替レート	円/ドル	107.7	105.8	103.5	110.7	110.7	110.6	

*セグメント利益から、棚卸資産評価差、原料キャリーオーバー、為替換算差を除いた損益

2020年度4-6月⇒2021年度4-6月

セグメント利益 +1,275億円内訳

JFE

JFEスチール	2020年度					2021年度	(億円)
	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	年間	4-6月	増減 対前年同期
セグメント利益	▲578	▲784	343	364	▲654	697	1,275

1. コスト

+150

- ・設備投資効果発現
- ・減産コストアップの縮小 等

2. 数量・構成

+250

- ・鋼材需要回復による数量増
(粗鋼量 479⇒625万t +147万t)

3. 販価・原料

▲110

- (≒鋼材トンあたり：▲2,100円)
- ・販売価格の改善はあるも、
鉄鉱石価格上昇によりスプレッドは悪化

4. 棚卸資産評価差等

+670

- ・棚卸資産評価差+490 (▲210→+280)
- ・原料キャリーオーバー影響+150 (±0→+150)
- ・為替換算差+30(▲20→+10)

5. その他

+315

- ・国内外グループ会社収益の改善 等

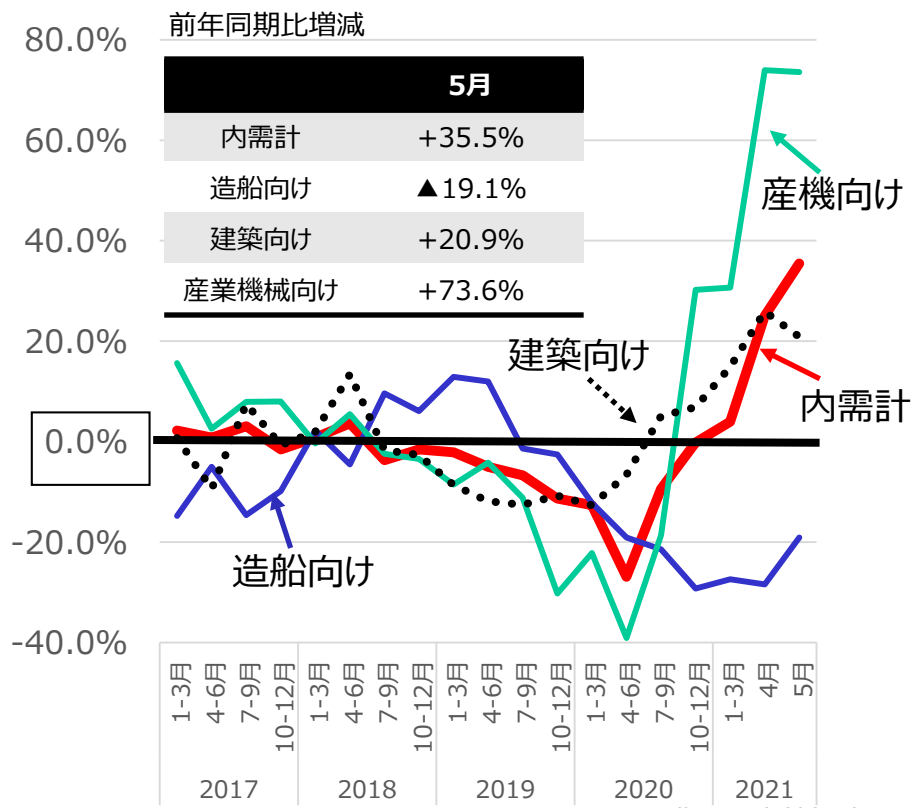


足下の事業環境認識（国内鋼材需要）

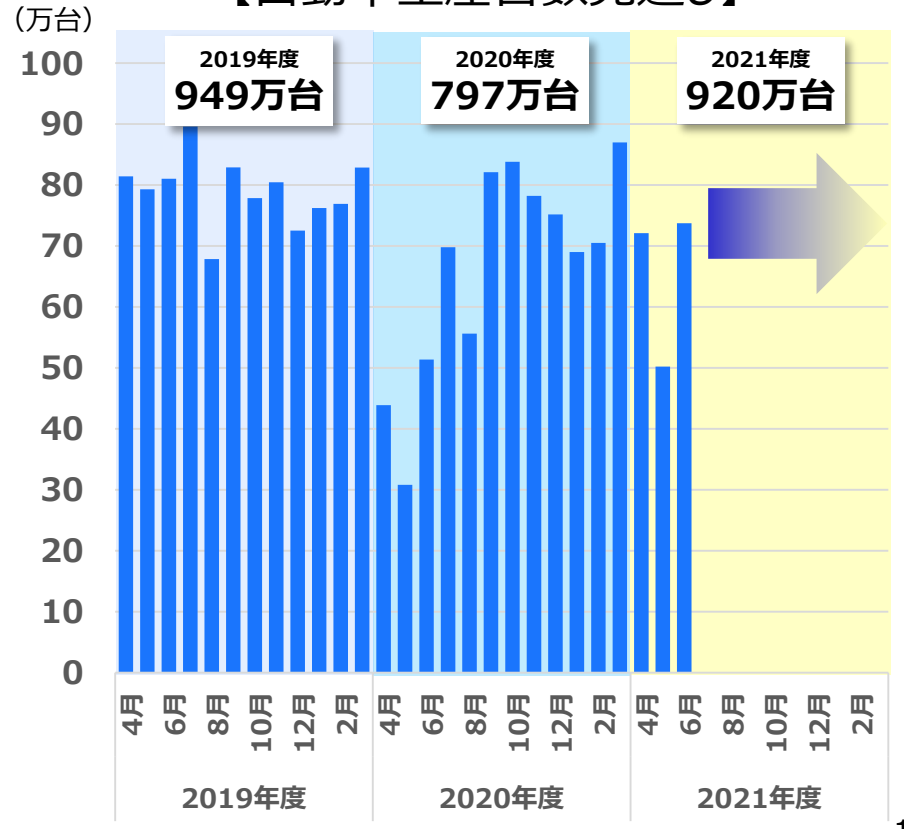
JFE

- **製造業を中心に需要堅調、鋼材需要の回復基調が継続**
- 21年5月の普通鋼鋼材受注は**前年度比+35.5%**と大幅な回復基調
- 自動車生産台数は足下半導體不足影響を受けて生産減が発現
夏以降挽回を想定するも、半導体・部品供給影響の長期化リスクあり、動向注視

【普通鋼鋼材受注推移】



【自動車生産台数見通し】



出典：日本鉄鋼連盟

JFE予想

足下の事業環境認識（海外鋼材需要）

- **海外鋼材需要は総じて回復基調が継続**
- インド、ASEANのコロナウイルス感染再拡大による動向は要注視
- 中国、インド、ロシアの東南アジア市場への輸出進出も限定的で、アジア市場の需給は安定する見込み

【四半期別 各国自動車販売台数推移】

【2021年暦年実質GDP成長率見通し】

(矢印は前回見通しからの変動)

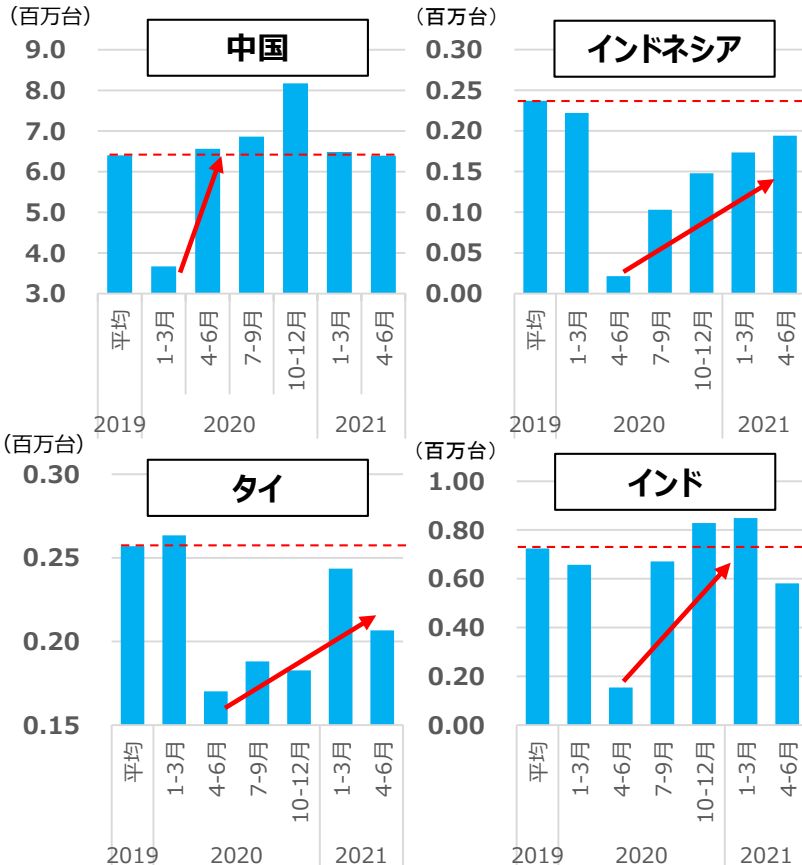
	世界平均	米国	中国	インド	ASEAN-5
参考:2020年実績	▲3.3%	▲3.5%	2.3%	▲8.0%	▲3.4%
21/4見通し	6.0%	6.4%	8.4%	12.5%	4.9%
21/7見通し	6.0%	7.0%	8.1%	9.5%	4.3%

出典：IMF World Economic Outlook Update 21/3/23公表・21/7/27公表

*ASEAN5：
タイ・マレーシア・インドネシア・
フィリピン・ベトナム

【各国の鋼材輸出動向】

	動向
中国	<ul style="list-style-type: none"> 中国当局による内需喚起活発 2020年対比で粗鋼減産の動き、需給均衡 鋼材輸出の大半で増値税還付撤廃（8/1～対象拡大）
インド ロシア	<ul style="list-style-type: none"> 経済回復による内需回復傾向 EU等他地域への輸出により、東南アジアへの輸出は限定的





業績見通しの前提

JFE

粗鋼生産量見通し

- 21年度の単独粗鋼生産量は、**2,650万吨程度**を見込む
(上期1,300万吨弱、下期1,350万吨強 年度見通しは前回から変動なし)

メタルスプレッド

- **主原料価格**
旺盛な鋼材需要を背景に、**当面は足下レベルの高値圏で推移**すると想定
- **輸出鋼材市況**
鋼材需要は回復傾向が継続し、アジア市場の需給は均衡が保たれ
市況高位が継続すると見込む
- **国内輸出トータルのスプレッド**は**前回見通し比+280億円の改善**を見込む

金属・スクラップ価格

- 需給のタイト化を受け、ほぼすべての金属で**足下高騰**



具体的施策と進捗①

JFE

販売価格改善の取り組み

- 下記の取り組みに関して、**お客様の理解は分野を問わず広がっており、販売価格改善を着実に推進している**
- 原料コストの上昇局面が継続する中で、販価改善施策を**さらに強力に推進**していく

◆ 原料コスト早期反映

原料コストの上昇分の確実かつ早期の価格反映に取り組む

- 原料コストに連動して販売価格を決める取引：**原料コスト参照期間の短縮化**
- 個別交渉により販売価格を決める取引：**原料コスト確定後1カ月程度での反映**
- **金属・スクラップのコスト上昇分**に関しても**鋼材価格への反映**を加速

◆ 海外市況の捕捉

市況との連動性が高い品種・分野に関しては、**原料コスト上昇分を上回る価格改善**について認めていただいている

◆ エキストラ見直し

既に一部では改定を実現。実態にそぐわなくなっている部分もあるため、**見直しを加速**

◆ 持続可能な価格水準への是正

継続的な取引の中でも、安定的な収益水準を確保できていない一部については、**持続可能な価格水準への是正**を推進



具体的施策と進捗②

JFE

プロダクトミックスの高度化（量から質への転換）

7次中期で掲げた下記のような取り組みを着実に進め、**高付加価値品比率を引き上げ、収益基盤の強化**を推進していく

- **洋上風力発電用大単重厚板の製造体制の確立を推進**

（倉敷第7連続鑄造設備稼働 21年6月）

2021年6月16日 リリース
関連項目：p.31-32参照

- **電磁鋼板戦略の推進**

- 倉敷地区 無方向性電磁鋼板(N/O)製造設備増強
- JSW社との方向性電磁鋼板(G/O)のJVのFS実行

2021年4月1日 リリース

2021年5月7日 リリース

- **世界初となるハイテンの熱間連続圧延技術を開発**

2021年5月6日 リリース

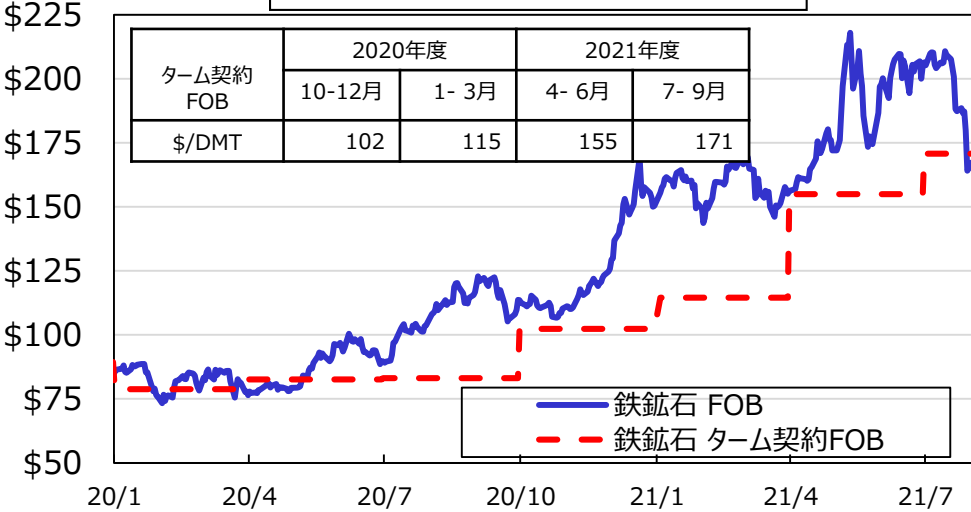
～ハイテンの安定生産・生産性向上に大きく寄与し 増加するハイテン需要に対応

業績見通しの前提（原料市況、鋼材市況）



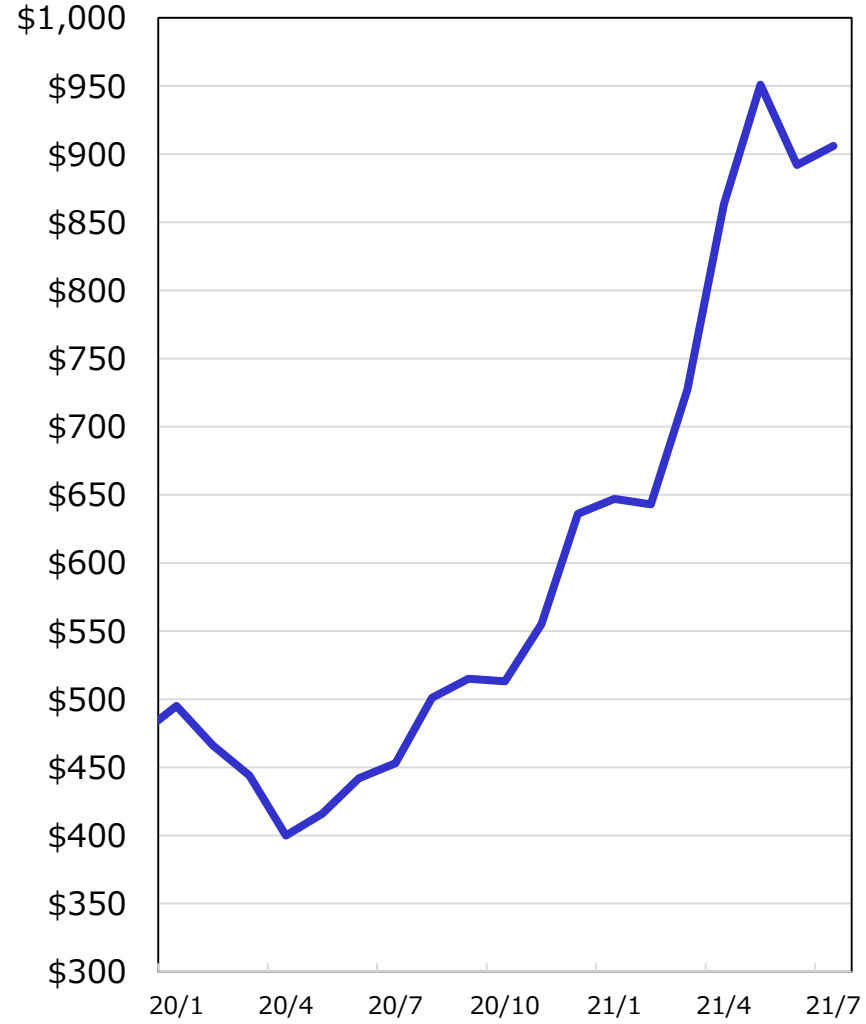
(\$/DMT)

鉄鉱石（豪州粉鉱）



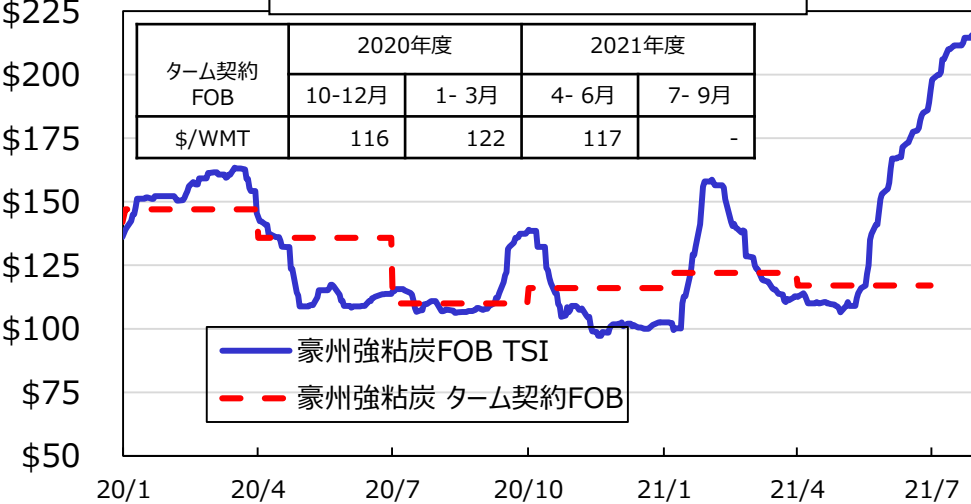
(CFR価格 \$/t)

東南アジア熱延価格



(\$/WMT)

原料炭（豪州強粘炭）



JFEスチール 2021年度 業績見通し

JFE

	単位	2020年度 年間	2021年度					2021年度 年間 前回見通し
			4-6月	7-9月	上期	下期	年間	
売上収益	億円	22,552	6,385	8,115	14,500	16,800	31,300	
セグメント利益	億円	▲654	697	903	1,600	1,200	2,800	1,400
棚卸資産評価差等 除き*	億円	▲314	257	493	750	480	1,230	840
単独粗鋼生産量	万t	2,276	625	670 程度	1,300 弱	1,350 強	2,650 程度	2,650 程度
連結粗鋼生産量	万t	2,396	659	700 程度	1,360 弱			
単独鋼材出荷量	万t	2,049	526	620 程度	1,140 程度			
鋼材輸出比率 (単独・金額ベース)	%	42.3	43.2	50 程度	47 程度			
鋼材平均価格	千円/ t	74.8	87.6	100 程度	95 程度			
為替レート	円/ドル	105.8	109.8	110 程度	110 程度	110 程度	110 程度	105 程度

*セグメント利益から、棚卸資産評価差、原料キャリアオーバー、為替換算差を除いた損益

2021年度 セグメント利益 対前回見通し +1,400億円内訳

JFE

- 至近の原料価格の高騰は一定期間継続するも、販価の改善（輸出の市況改善、国内の主原料価格反映）を見込み、スプレッドは回復の見通し
- 対前回見通しでは、棚卸資産評価差等を中心に損益改善

(億円)

JFEスチール	2021年度 前回見通し	2021年度 今回見通し	増減 対前回
セグメント利益	1,400	2,800	+1,400

1. コスト	±0	・ 対前年度+300億円を計画
2. 数量・構成	±0	・ 粗鋼量 2,650万t程度
3. 販価・原料	+280	(≒鋼材トンあたり：+1,200円) ・ 主原料市況は足下レベルの高値圏継続も、販売価格上昇によりスプレッド改善
4. 棚卸資産評価差等	+1,010	・ 棚卸資産評価差+750 (+390→+1,140) ・ 原料キャリーオーバー影響+250 (+170→+420) ・ 為替換算差+10(±0→+10)
5. その他	+110	・ 国内外グループ会社収益の改善 ・ スクラップ・金属等の物価上昇 等

2021年度 セグメント利益 対前年度 +3,454億円内訳

- 新型コロナウイルス影響を大きく受けた2020年度からは需給環境が大幅に回復
- 輸出を中心とした市況好転・数量増、国内外のグループ会社収益の改善により、対前年度で大幅な改善を見込む

JFEスチール	2020年度 実績	2021年度 見通し	増減 対前年度
セグメント利益	▲654	2,800	+3,454
1. コスト	+300	・ 新規設備投資効果等	
2. 数量・構成	+700	・ 鋼材需要回復による数量増 (粗鋼量 2,276⇒2,650万t程度)	
3. 販価・原料	+430	(≒鋼材トンあたり：+1,800円) ・ 主原料市況は足下レベルの高値圏継続も、販売価格上昇によりスプレッド改善	
4. 棚卸資産評価差等	+1,910	・ 棚卸資産評価差+1,510 (▲370→+1,140) ・ 原料キャリーオーバー影響+390 (+30→+420) ・ 為替換算差+10(±0→+10)	
5. その他	+114	・ 国内外グループ会社収益の改善 ・ スクラップ・金属等の物価上昇 等	

2021年度上期⇒下期 セグメント利益 ▲400億円内訳

JFE

- 下期にかけて粗鋼生産量は増加し、コスト改善も進捗する
- 需給がタイトな環境が継続し、主原料物価に加えその他原料の物価も上昇
- 下期損益は上期からの悪化を見込む

(億円)

JFEスチール	2021年度 見通し			増減 2021上→下
	上期	下期	年間	
セグメント利益	1,600	1,200	2,800	▲400

1. コスト

+150

- 新規設備投資効果
- ソフト改善、補修費削減 等

2. 数量・構成

+130

- 国内外の経済復調を背景に、緩やかな需要回復を見込む
- 倉敷第4高炉の改修工事完了に伴う生産量増
(粗鋼量 1,300万t弱⇒1,350万t強)

3. 販価・原料

±0

- 主原料市況は足下レベルの高値圏継続も、下期にかけて一段の販売価格改善推進

4. 棚卸資産評価差等

▲130

- 棚卸資産評価差+60 (+540→+600)
- 原料キャリーオーバー影響▲180 (+300→+120)
- 為替換算差▲10(+10→±0)

5. その他

▲550

- 海外グループ会社上期好調
- 減価償却費・経費
- スクラップ・金属等の物価上昇 等

JFEエンジニアリング 2021年度 業績見通し

2021年度 業績見通し

JFE

足下の事業環境/損益概況

- ▶ 国内の事業環境は環境・エネルギー関連分野およびインフラ分野ともに堅調に推移
- ▶ 海外については、欧州の環境関連分野が引き続き堅調に推移
- ▶ 企業買収による増収等により、セグメント利益は前年度を上回る見通しで引き続き安定的な収益を確保

業績見通し


(億円)	20年度実績		21年度見通し		増減 (対前年同期)		前回見通し 年間
	上期	年間	上期	年間	上期	年間	
受注高	2,989	5,011	3,000	5,500	11	489	5,500
売上収益	2,219	4,857	2,400	5,200	181	343	
セグメント利益	87	240	100	250	13	10	250

対前年同期

【年間見通し】

- ・受注高 +489 企業買収*、カーボンニュートラル分野の大型案件の受注増
- ・売上収益 +343 前年度受注高拡大、企業買収*による増加
- ・セグメント利益 +10 売上収益増により増加

JFE商事 2021年度 業績見通し



2021年度 業績見通し

JFE

足下の事業環境/損益概況

- 上期は、コロナ影響により大幅に落ち込んでいた国内外の需要回復に加え、鋼材市況の急上昇により国内外グループ会社の収益が拡大し、大幅な増益の見通し
- 下期は、鋼材市況は上期並みの水準が継続する前提であるも、仕入価格の上昇によりスプレッドは平常レベルに収束すると見込まれる
- 通期ではセグメント利益380億円（対前年度+180億円）を見込む

(億円)	20年度実績		21年度見通し		増減（対前年同期）		前回見通し 年間
	上期	年間	上期	年間	上期	年間	
売上収益	4,517	9,325	5,600	11,500	1,083	2,175	
セグメント利益	72	200	230	380	158	180	270

対前年同期

【年間見通し】

- ・セグメント利益 +180 上期における国内外の需要回復および市況急上昇によるスプレッド拡大、国内薄板グループ会社や米州を中心とした海外グループ会社での大幅な増益等

対前回見通し

【年間見通し】

- ・セグメント利益 +110 上期における鋼材市況の好転によるスプレッド改善等

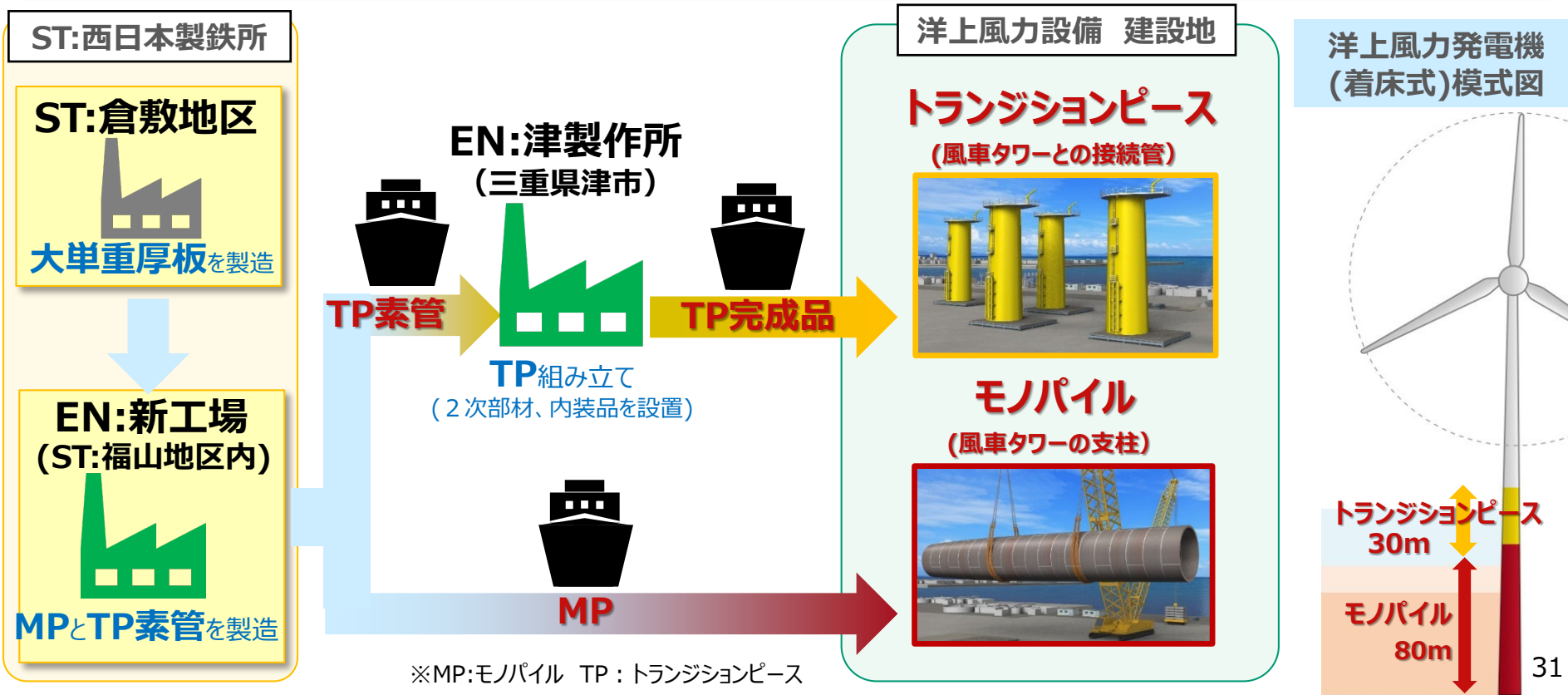
トピックス (ESG課題への取り組み等)

洋上風力モノパイル基礎の製造事業の実施

JFE

- JFEエンジニアリングは洋上風力設備の着床式基礎（モノパイル式）新工場の設備投資を決定
- モノパイル新工場（岡山県笠岡市*）とトランジションピース組立工場（三重県津市）への設備投資総額は約400億円を見込む *JFEスチール西日本製鉄所福山地区内
- モノパイル製造拠点を速やかに建設するとともに、将来的にはジャケット式基礎**を加え、洋上風力基礎構造のフルラインナップ体制を確立し、急拡大する洋上風力発電の建設需要に対応し、カーボンニュートラル実現に大きく貢献していく

**洋上風力設備の着床式基礎の一種。



西日本製鉄所 上工程大型設備の稼働開始

JFE

- 国内製造基盤強化のための投資案件である、西日本製鉄所の上工程設備 2 件が稼働開始
- 倉敷地区の新連続鑄造機の稼働により、**高品質かつ大断面・大単重の洋上風力用の厚板を量産することが可能**

①倉敷地区 第7連続鑄造設備 稼働開始

- 大断面スラブを高効率で鑄造可能
- 同地区厚板ミルと組み合わせ、世界最大級の
大単重厚板を提供

稼働時期：2021年6月
生産能力：200万トン/年
投資額：530億円
品種：厚板・薄板

ST福山地区内にJFEエンジが新設する
モノパイル製造新工場へ素材提供



②福山地区 第3コークス炉B団 稼働開始

- コークス生産効率を向上し、発塵防止やNOxの排出削減等、環境に配慮した操業を実現

稼働時期：2021年6月
生産能力：約36万トン/年
投資額：140億円



世界の代表的ESG投資指数の構成銘柄に選定

ESG投資の代表的指数「FTSE4Good Index Series」* 「FTSE Blossom Japan Index」**の構成銘柄に2年連続選定



FTSE4Good

*「FTSE4Good Index Series」

2021年7月8日 リリース

<https://www.ftserussell.com/ja/products/indices/ftse4good>

ロンドン証券取引所の子会社であるFTSE Russellが開発し、環境、社会、ガバナンスについて優れた対応を行っている企業を選定。サステナブル投資のファンドや他の金融商品の作成・評価に広く利用。

FTSE Blossom
Japan

**「FTSE Blossom Japan Index」

<https://www.ftserussell.com/ja/products/indices/blossom-japan>

FTSE Russellが作成した、環境、社会、ガバナンス(ESG)の対応に優れた日本企業のパフォーマンスを反映するインデックス。

当社は、GPIFが選定するESG投資指数のうち、「FTSE Blossom Japan Index」、「WIN(MSCI日本株女性活躍指数)」、「S&P/JPXカーボン・エフィシエント指数」の3つの構成銘柄に選定されています。

気候変動・安全・コンプライアンス等のESG課題への継続的な取り組みを推進し、
持続可能な社会の発展に貢献

DXに関する社外からの評価

JFEホールディングス 「DX銘柄2021」 に7年連続選定

2021年6月8日 リリース

DX銘柄2021
Digital Transformation

- JFEホールディングスは、DXを積極的に推進する企業として「DX銘柄2021」に選定
- 当銘柄の前身の「攻めのIT経営銘柄」を含めると、**7年連続での選定**

JFEスチール 「IT Japan Award 2021」 準グランプリ 受賞

2021年6月8日 リリース



- JFEスチールは、日経コンピュータ主催の「IT Japan Award 2021」において、「高炉CPS」および『J-mAster®』に関する取り組みが評価され、**準グランプリを受賞**

今後も革新的な生産性向上、既存ビジネスの変革、新規ビジネスの創造を中心に、あらゆる事業領域においてDXを推進

參考資料



主な財務関連データ

JFE

【日本基準】

【IFRS】

見直し

年度	'13	'14	'15	'16	'17	'18
【主要財務指標】(億円、%、倍)						
経常利益	1,736	2,310	642	847	2,163	2,211
EBITDA ※1	3,689	4,215	2,544	2,799	3,888	4,059
ROS ※2	4.7%	6.0%	1.9%	2.6%	5.9%	5.6%
ROE ※3	6.3%	7.7%	1.8%	3.7%	7.6%	8.3%
ROA ※4	4.5%	5.5%	1.7%	2.3%	5.2%	5.1%
借入金・社債等残高(期末)	15,340	15,017	13,793	13,754	13,309	14,499
Debt/EBITDA倍率 ※5	4.2倍	3.6倍	5.4倍	4.9倍	3.4倍	3.6倍
D/Eレシオ ※6	67.9%	59.0%	56.9%	51.4%	58.1%	62.0%
【1株当たり情報】(円/株、%)						
親会社株主に帰属する当期純利益	177.4	241.6	58.4	117.8	250.8	285.0
配当金	40	60	30	30	80	95
配当性向	22.5%	24.8%	51.4%	25.5%	31.9%	33.3%

年度	'18	'19	'20	'21上
【主要財務指標】(億円、%、倍)				
事業利益	2,320	378	▲129	1,950
EBITDA ※1	4,282	2,694	2,234	3,150
ROS ※2	6.0%	1.0%	▲0.4%	9.9%
ROE ※3	8.6%	▲11.1%	▲1.3%	14.8%
ROA ※4	5.0%	0.8%	▲0.3%	8.3%
有利子負債残高(期末)	15,238	18,143	18,061	18,000
Debt/EBITDA倍率 ※5	3.6倍	6.7倍	8.1倍	2.9倍
D/Eレシオ ※6	68.2%	96.4%	93.2%	84.4%
【1株当たり情報】(円/株、%)				
親会社の所有者に帰属する当期利益	283.8	▲343.4	▲38.0	225.8
配当金	95	20	10	60
配当性向	33.5%	-	-	26.6%

【日本基準】

※1 EBITDA: 経常利益+支払利息+減価償却費

※2 ROS: 経常利益/売上高

※3 ROE: 親会社株主に帰属する当期純利益/自己資本

※4 ROA: (経常利益+支払利息)/総資産

※5 Debt/EBITDA倍率: 借入金・社債等残高/EBITDA

※6 D/Eレシオ: 借入金・社債等残高/自己資本

但し、格付け評価上の資本性を持つ負債について、格付機関の評価により資本に算入

【IFRS】

※1 EBITDA: 事業利益+減価償却費及び償却費

※2 ROS: 事業利益/売上収益

※3 ROE: 親会社の所有者に帰属する当期利益/親会社の所有者に帰属する持分

※4 ROA: 事業利益/資産合計

※5 Debt/EBITDA倍率: 有利子負債残高/EBITDA

※6 D/Eレシオ: 有利子負債残高/親会社の所有者に帰属する持分

但し、格付け評価上の資本性を持つ負債について、格付機関の評価により資本に算入

2021年度4-6月

⇒2021年度7-9月 セグメント利益 +206億円内訳

JFE

(億円)

JFEスチール	2021年度 見通し			増減 4-6月→7-9月
	4-6月実績	7-9月見通し	上期見通し	
セグメント利益	697	903	1,600	+206

1. コスト

±0

2. 数量・構成

+70

- ・ 4-6月（メンテナンス工事集中）から増加（粗鋼量 625⇒670万t程度）

3. 販価・原料

+370

- （≒鋼材トン当たり：6,000円）
- ・ 鉄鉱石・原料炭価格は上昇するも、販売価格の上昇により、スプレッドは改善

4. 棚卸資産評価差等

▲30

- ・ 棚卸資産評価差 ▲20 (+280→+260)
- ・ 原料キャリーオーバー影響±0 (+150→+150)
- ・ 為替換算差 ▲10(+10→±0)

5. その他

▲204

- ・ 資産廃売却の時期差
- ・ 金属・スクラップ等の物価上昇 等

2020年度上期

⇒ 2021年度上期 セグメント利益 +2,962億円内訳

(億円)

JFEスチール	2020年度 上期実績	2021年度 上期見通し	増減 2020上→2021上
セグメント利益	▲1,362	1,600	+2,962

1. コスト

+150

・ 設備投資効果発現 等

2. 数量・構成

+510

・ 鋼材需要回復による数量増
(粗鋼量1,017⇒1,300万t弱)

3. 販価・原料

+310

(≒鋼材トン当たり：2,700円)
・ 鉄鉱石・原料炭価格は上昇するも、
販売価格の上昇により、スプレッドは改善

4. 棚卸資産評価差等

+1,530

・ 棚卸資産評価差+1,120 (▲580→+540)
・ 原料キャリーオーバー影響+360 (▲60→+300)
・ 為替換算差+50(▲40→+10)

5. その他

+462

・ 国内外グループ会社収益の改善 等

2020年度下期

⇒ 2021年度上期 セグメント利益 +892億円内訳

JFE

(億円)

JFEスチール	2020年度 下期実績	2021年度 上期見通し	増減 2020下→2021上
セグメント利益	708	1,600	+892

1. コスト

±0

2. 数量・構成

+50

- 鋼材需要回復による数量増
(粗鋼量 1,259⇒1,300万t弱)

3. 販価・原料

+120

- (≒鋼材トン当たり：1,000円)
- 鉄鉱石・原料炭価格は上昇するも、
販売価格の上昇により、スプレッドは改善

4. 棚卸資産評価差等

+510

- 棚卸資産評価差+330 (+210→+540)
- 原料キャリーオーバー影響+210 (+90→+300)
- 為替換算差▲30(+40→+10)

5. その他

+212

- 海外グループ会社収益の改善
- 金属・スクラップ等の物価上昇 等

2020年度1-3月

⇒ 2021年度4-6月 セグメント利益 +333億円内訳

JFE

(億円)

JFEスチール	2020年度					2021年度 4-6月	増減 1-3月→4-6月
	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	年間		
セグメント利益	▲578	▲784	343	364	▲654	697	+333

1. コスト

±0

2. 数量・構成

▲20

- ・ 出荷数量減

3. 販価・原料

▲170

(≒鋼材トンあたり：▲3,200円)

- ・ 販売価格の上昇はあるも、
主原料価格の急激な上昇によりスプレッド悪化

4. 棚卸資産評価差等

+300

- ・ 棚卸資産評価差+240 (+40→+280)
- ・ 原料キャリーオーバー影響+100 (+50→+150)
- ・ 為替換算差▲40(+50→+10)

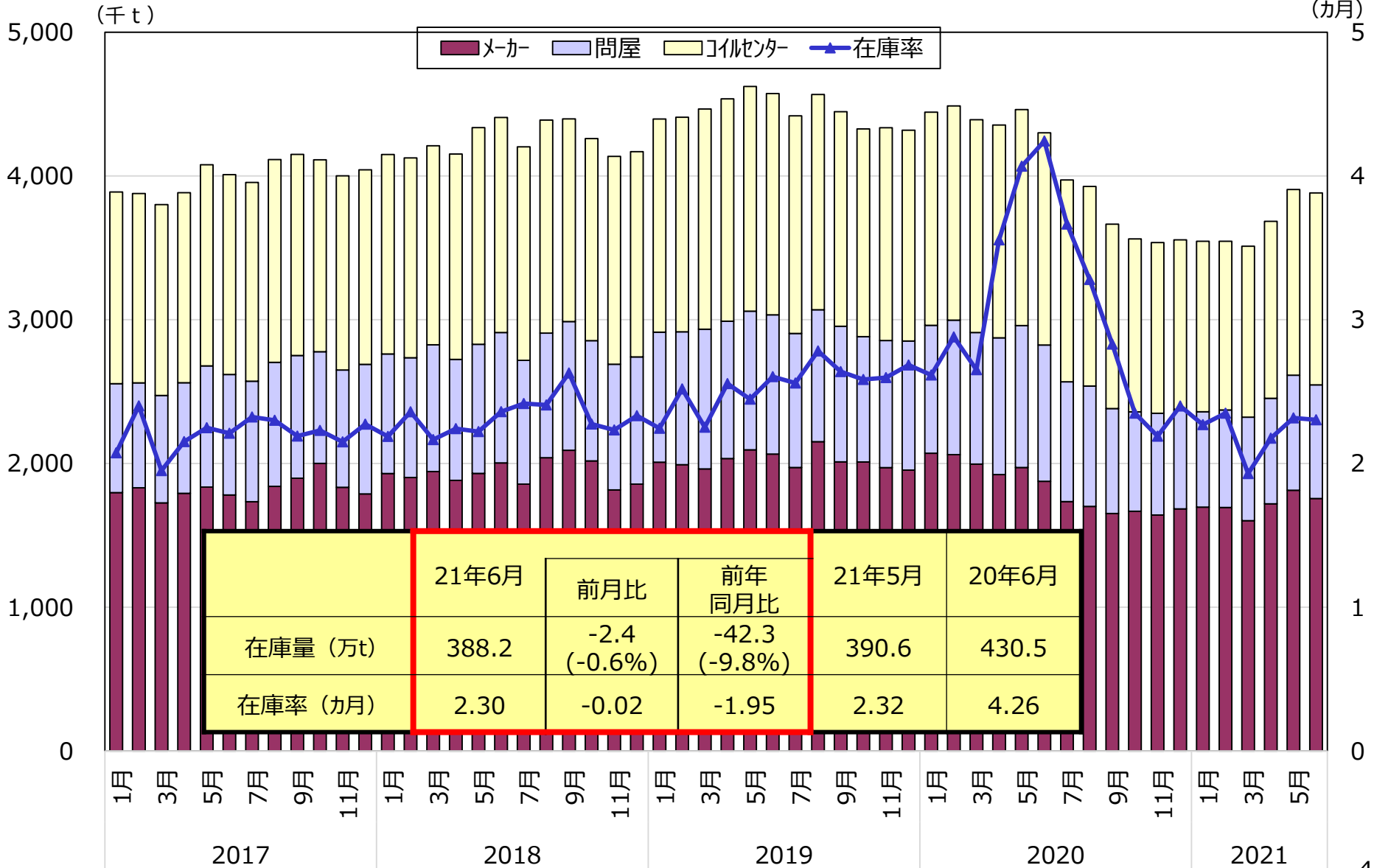
5. その他

+223

- ・ 海外グループ会社収益の改善 等

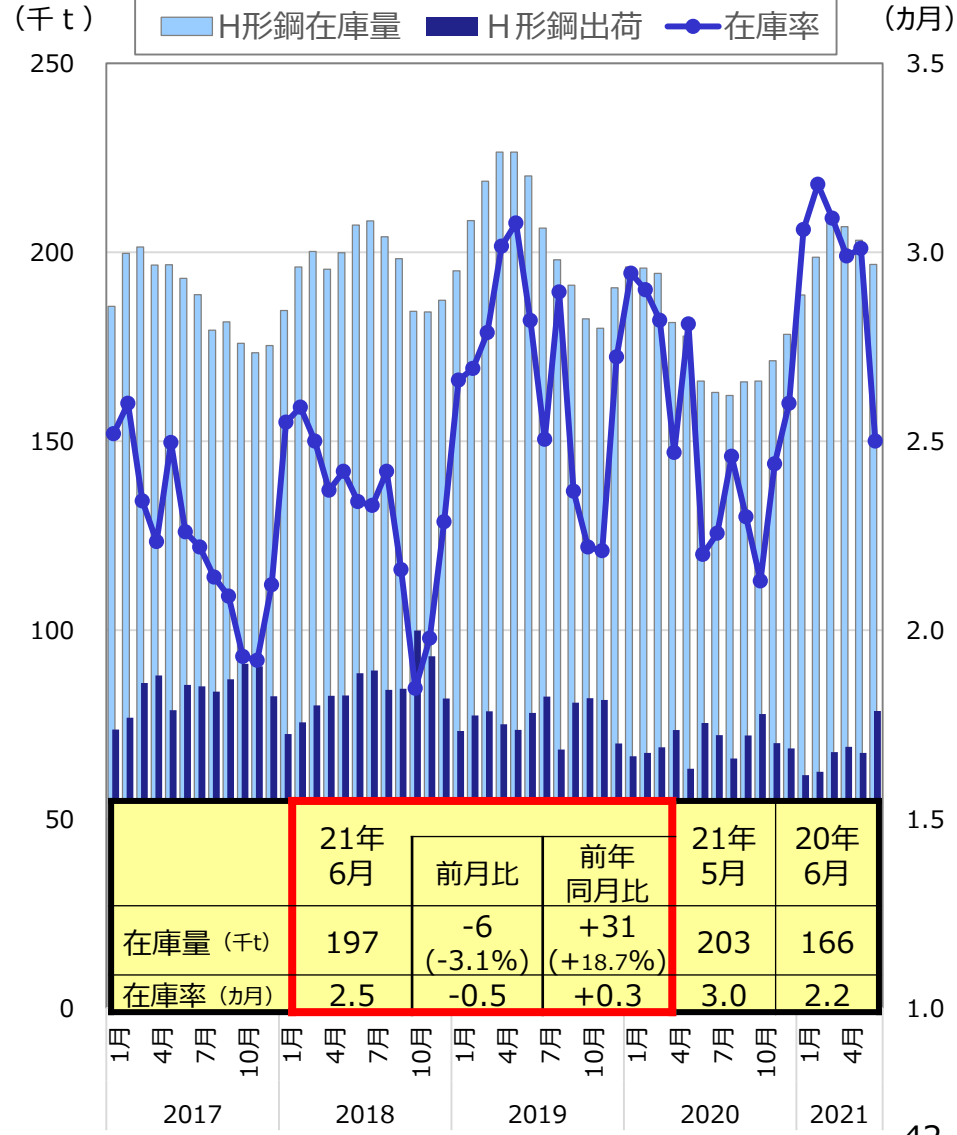
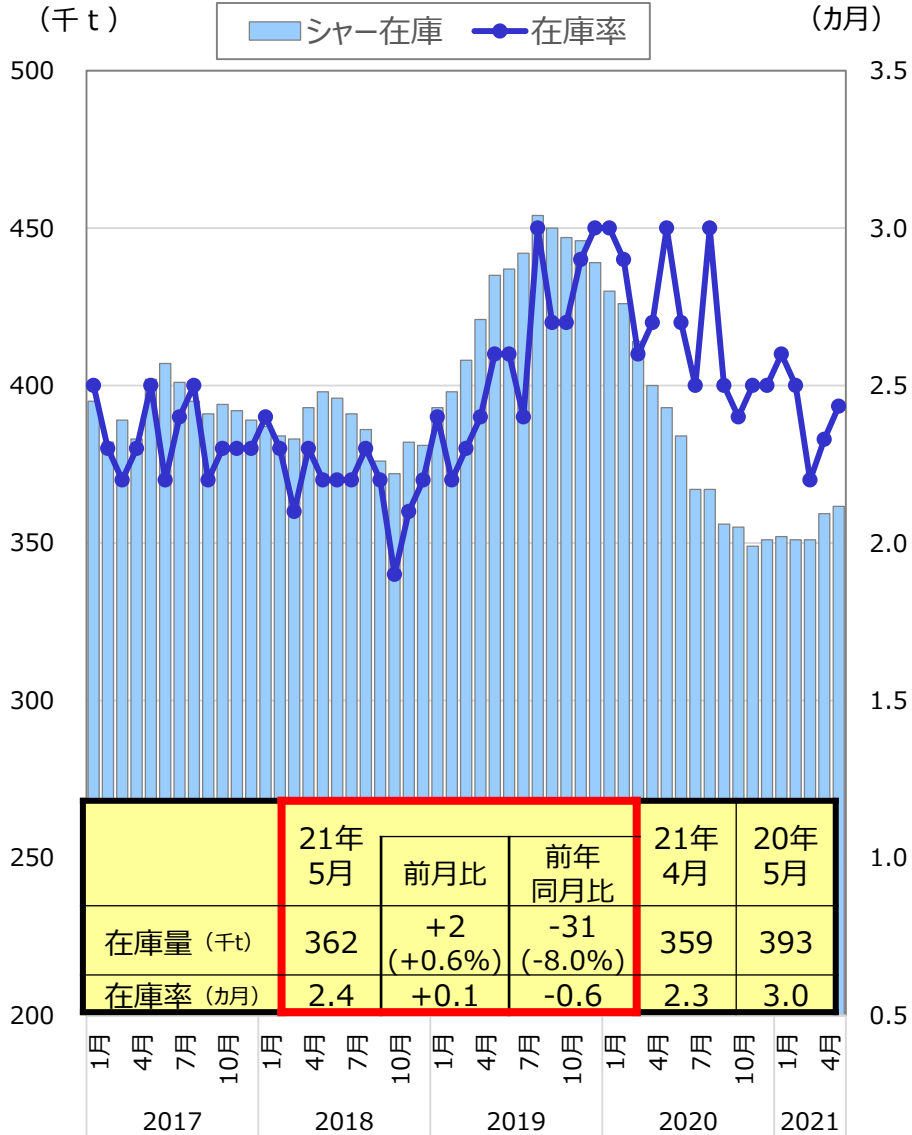
国内販売環境

薄板 3 品在庫



国内販売環境

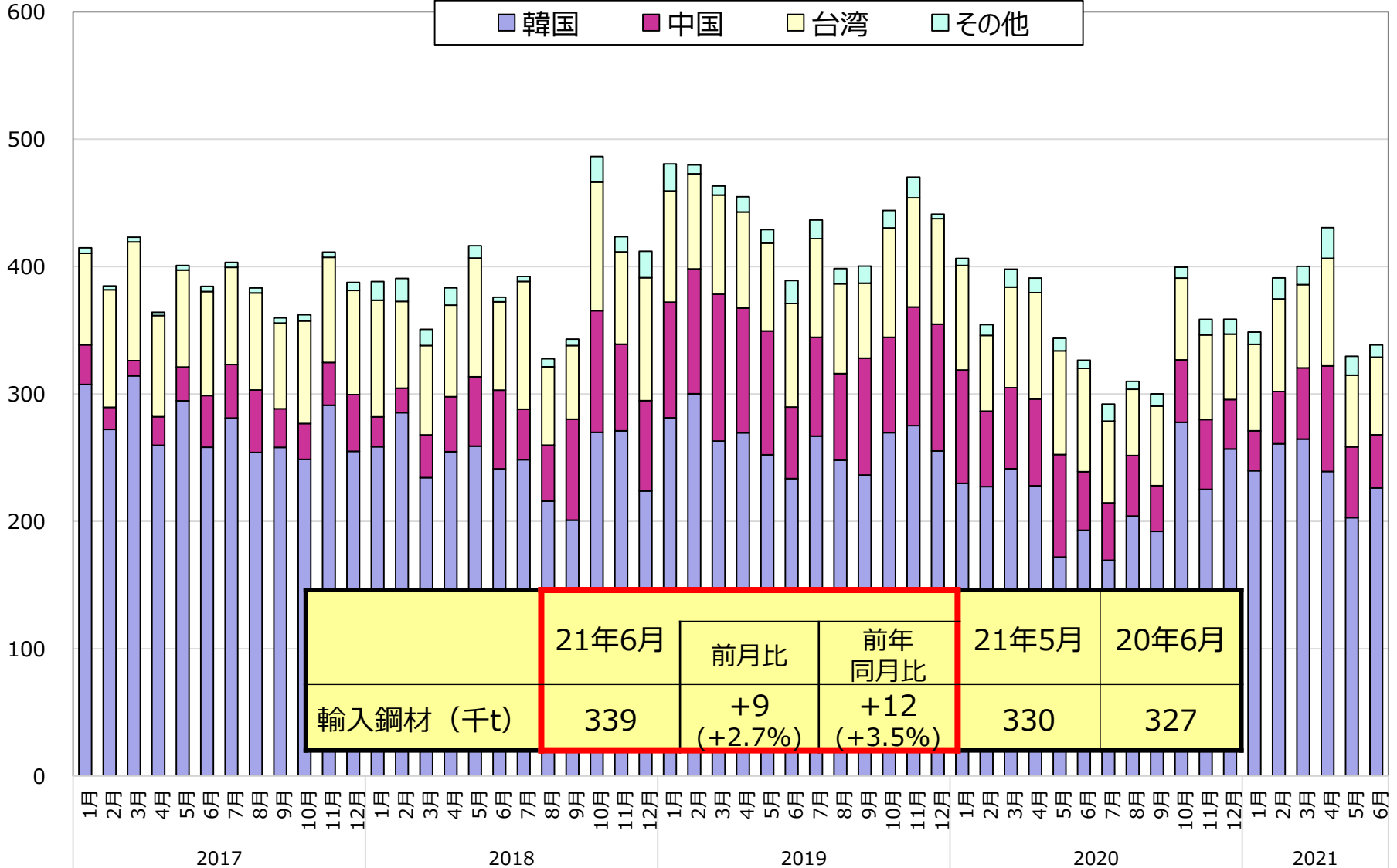
厚板シャー・H形鋼在庫



国内販売環境

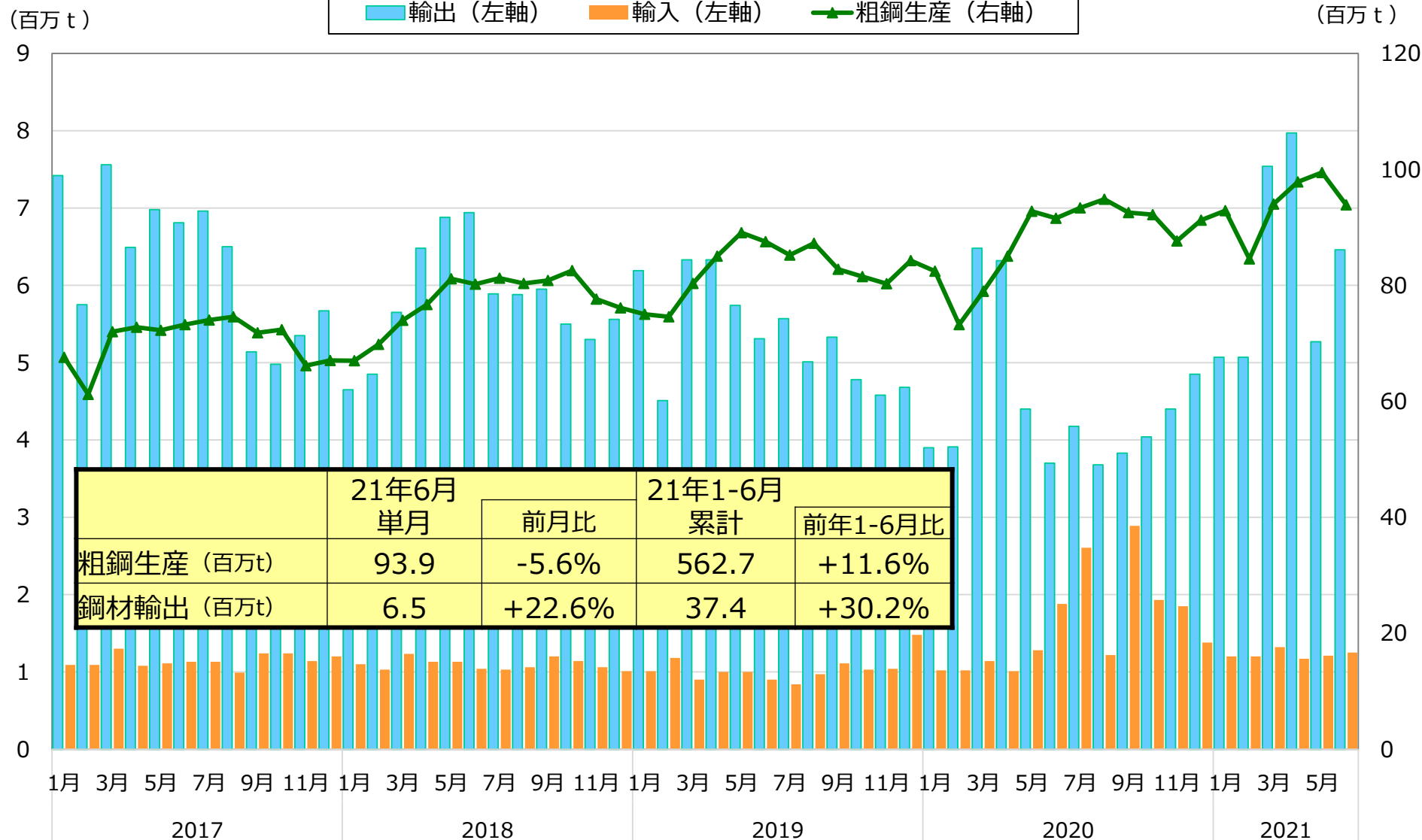
輸入鋼材（普通鋼/国別）

JFE
(千t)



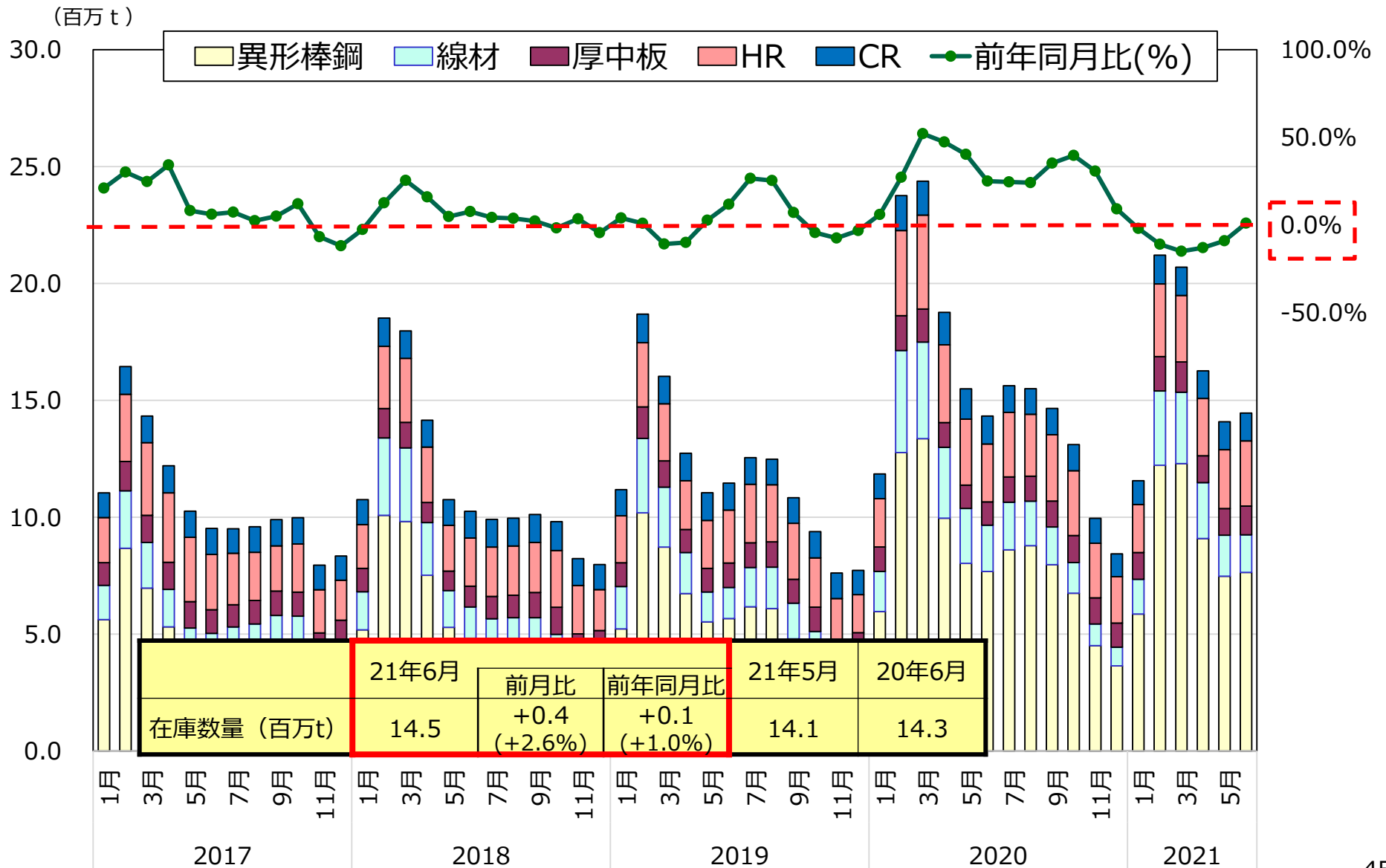
海外販売環境

中国粗鋼生産・輸出入



海外販売環境

中国品種別在庫数量

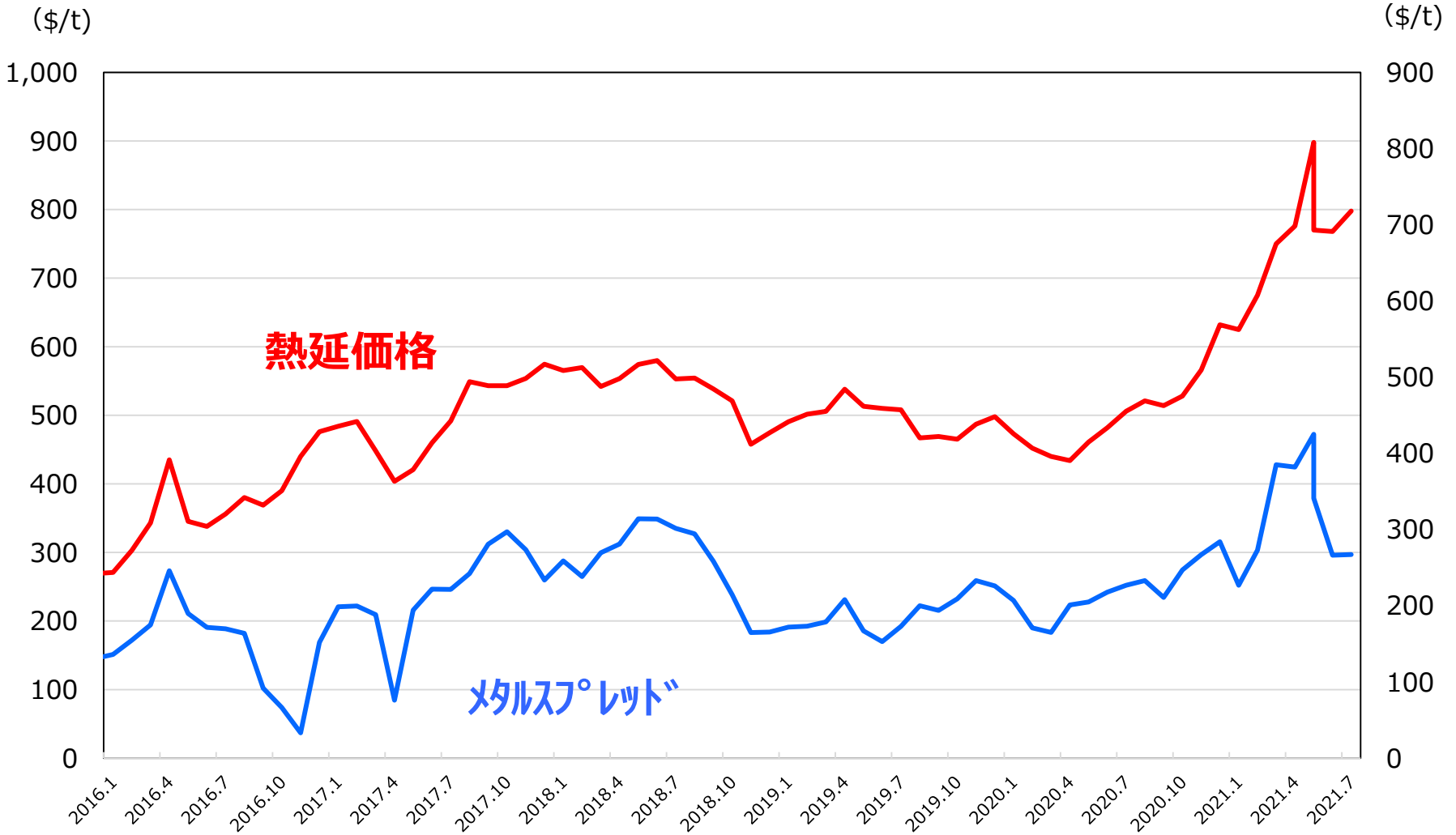




海外販売環境

(中国スポットベース)
メタルスプレッド

JFE



メタルスプレッド = 熱延価格 - 主原料コスト

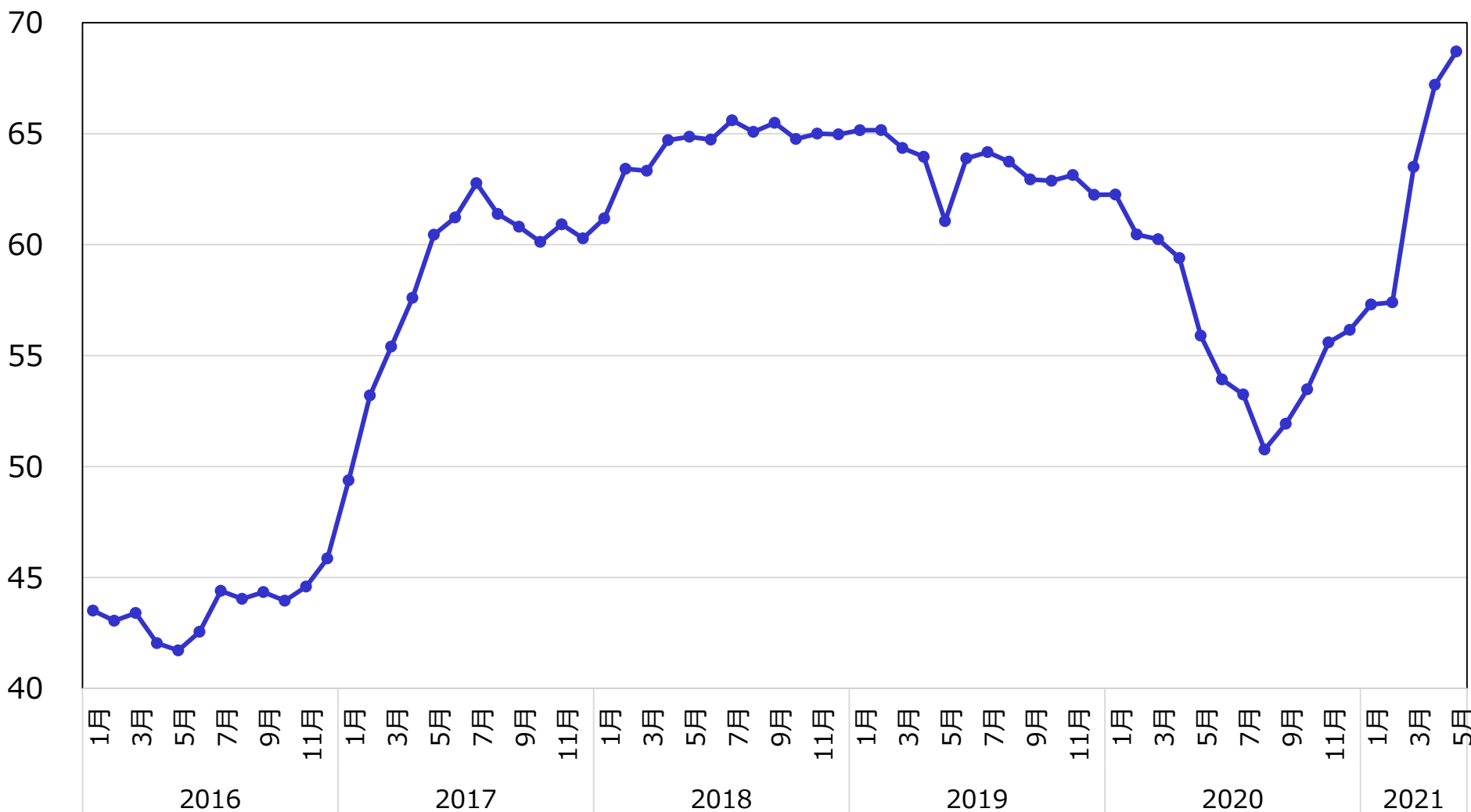
※熱延価格：中国21都市平均価格、主原料コスト：粉鉱石、強粘炭国際スポット市況ベース

国内販売環境

輸入鋼材価格

JFE

(千円/t)



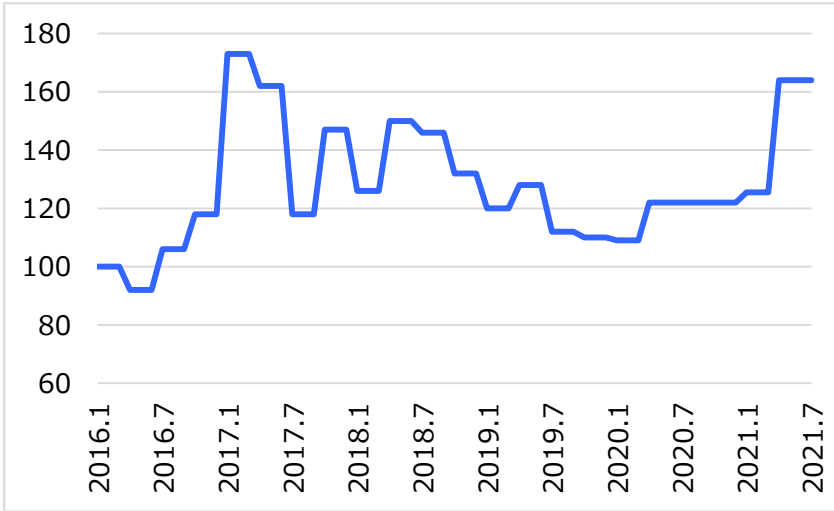
日本鉄鋼連盟データより作成 (韓国から輸入の熱延広幅帯鋼)

原料

金属市況推移

JFE

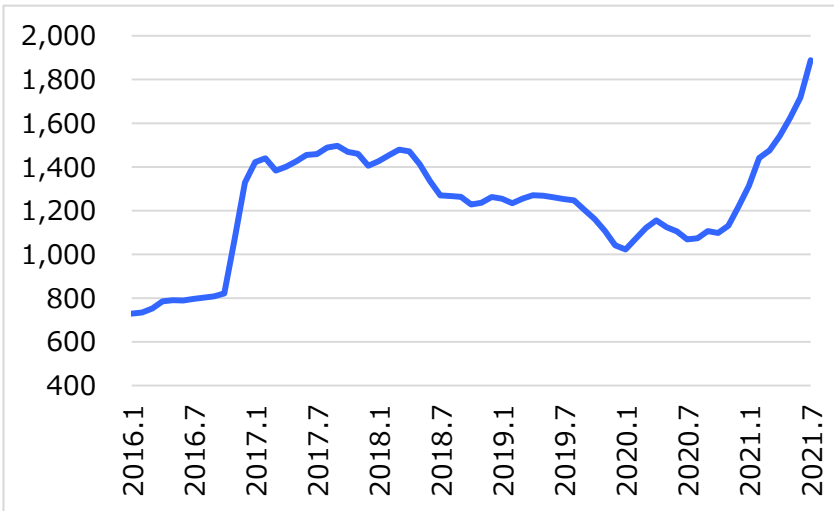
(¢/lb) フェロクロム



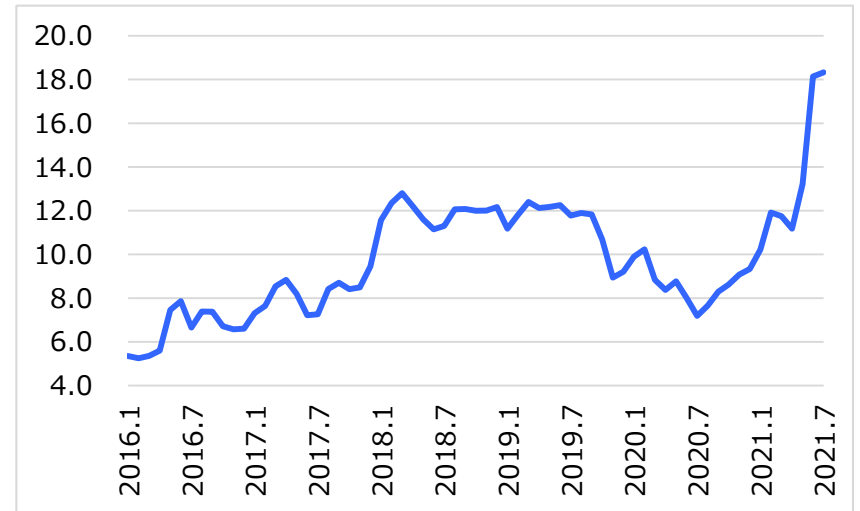
(US\$/t) 亜鉛



(US\$/t) フェロマンガン



(US\$/lb) モリブデン

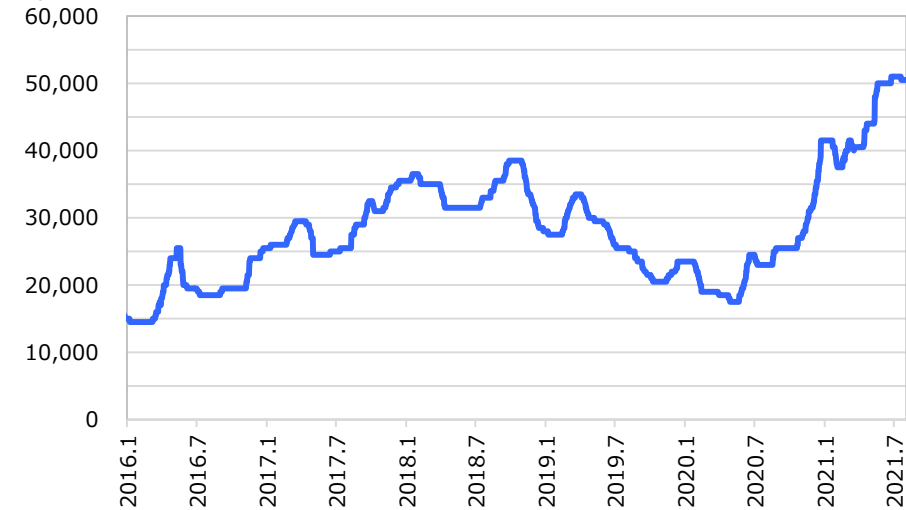


原料

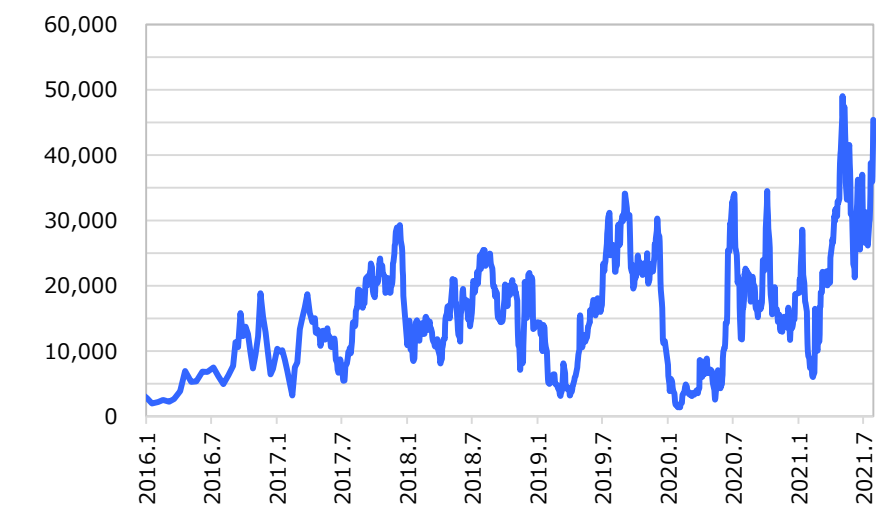
その他市況推移



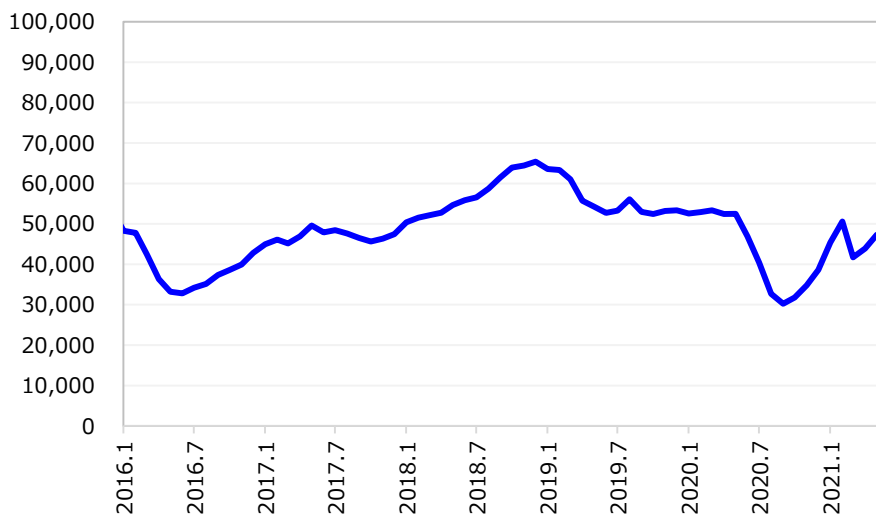
スクラップ市況



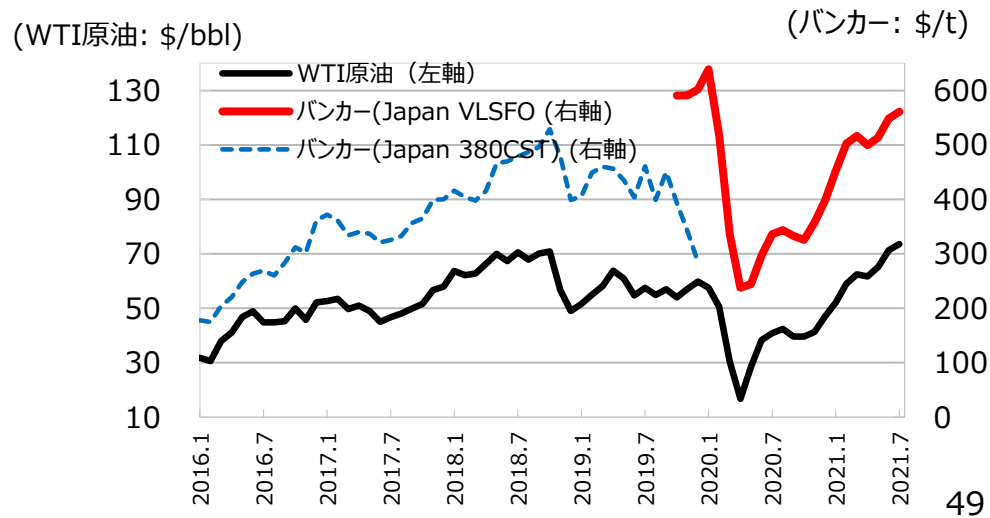
スポット備船市況



LNG市況



原油・バンカー市況



設備投資・構造改革スケジュール



設備		～19年度	20年度	21年度	22年度	23年度～
構造改革	京浜 上工程設備休止 (第2高炉・焼結・コークス炉・転炉・電気炉・連続鋳造機他)					★ 23年9月目途に休止
	京浜 熱延設備休止 (熱延ライン[除く酸洗・スキンパス])					★ 23年9月目途に休止
	京浜 冷延・表面処理ライン休止 (第1タンデム・第3CGL)		★ 19年度末休止			
	千葉 缶用鋼板設備休止 (第2タンデム・第2/4CAL・TFL・第2ETL)		★ 19年度末一部休止 (第2CAL・第2ETL)			★ 22年9月目途に休止 (第2タンデム・第4CAL・TFL)
新規稼働設備	千葉・倉敷 高炉改修			★ 倉敷第4高炉改修 (～21.12)	★ 千葉第6高炉改修 (22.9～12)	
	倉敷 連続鋳造			★ 第7連続鋳造機稼働 (21.6)		
	倉敷 電磁鋼板					★ 24年度 無方向性電磁鋼板 製造設備増強
	福山 コークス炉		★ 第3コークス炉A団	★ 第3コークス炉B団 (21.6)		
	福山 焼結		★ 第3焼結機稼働			
	福山 エネルギー			★ 共同火力発電所新2号機稼働		
	福山 フェロコークス			フェロコークス製造、運用技術開発		
	海外 メキシコNJSM			★ 自動車用CGL稼働		



JFEエンジニアリング 受注内容

JFE

(億円)

分野	2020年度 実績	2021年度 見通し	増減	2021年度 第1四半期 主な受注内容
Waste to Resource	2,200	2,300	100	国内廃棄物処理施設 基幹改良工事[★高知]
カーボン ニュートラル	360	820	460	★松川地熱発電所更新工事[岩手] ★森バイナリー発電所建設工事[北海道]
複合 ユーティリティ サービス	110	150	40	
基幹 インフラ	2,341	2,230	▲111	国内橋梁新設 (★東海環状自動車道大野神戸IC橋他4橋[岐阜]) 国内橋梁改築 (★東名高速大井川橋他1橋床版取替[静岡])
合計	5,011	5,500	489	



JFE

Copyright © 2021 JFE Holdings, Inc. All Rights Reserved

本資料の無断複製・転載・webサイトへのアップロード等はおやめ下さい